

「キャンパス・アジア」モニタリング 自己分析書

平成25年5月

「東アジア次世代人文学リーダー養成のための、
日中韓共同運営トライアングルキャンパス」

立命館大学

<目次>

I 構想にかかる基本情報および目的、進捗状況	
1. 基本情報	1
2. 構想の目的、概要、進捗状況	1
II 基準ごとの自己分析	
基準1 教育プログラムの目的	4
基準2 教育の実施	
基準2-1 実施体制	6
基準2-2 教育内容・方法	8
基準2-3 学習・生活支援	10
基準2-4 単位互換・成績評価	12
基準3 学習成果	14
基準4 内部質保証システム	16

I 構想にかかる基本情報および目的、進捗状況

1. 基本情報

1. 大学名	立命館大学	
2. 構想名称	【和文】	東アジア次世代人文学リーダー養成のための、日中韓共同運営トライアングルキャンパス
	【英文】	Plan for a Joint Campus representing Korea, China and Japan which will foster leaders in East Asian humanities for the next generation.
3. 取組学部・研究科等名	文学部・文学研究科	
4. 海外の相手大学	【中国】	広東外語外貿大学
	【韓国】	東西大学校

2. 構想の目的、概要、進捗状況

○構想の目的及び概要

1. 構想の目的

本構想は、日中韓の選抜された学生（以下パイロット学生という）がそれぞれのキャンパスを国際移動し、共同運営される講義群や各大学の講義群を履修することで、日中韓の各言語・文化・文学・歴史等を深く理解し、とりわけ文化・教育研究分野で活躍する優秀な人材を育成する拠点の形成を目的としている。アジアに対する伝統的日本文化の発信地である京都と、東アジアの一大ハブ港である釜山、広州とのネットワークにより、日中韓の伝統文化・最新文化の両者に通じた高いコミュニケーション能力を有した人材の育成が目指され、卒業後も含めた日中韓次世代リーダーのネットワーク・人材バンクを構築する。

2. 構想の背景

平成 15 年以降、立命館大学・東西大学校（韓国釜山市）・広東外語外貿大学（中国広州市、平成 18 年から参加）の三大学間で高度な遠隔システム（テレビ会議）による講義（以下日中韓連携ゼミという）を実施し、正課科目として各大学が単位を認定してきた。また夏季と春季には、7～10 日間程度の集中授業をローテーションで各国において実施し、講義・フィールドワーク等を実施してきた。これらを通じて、東西大、広東外語外貿大の外国語学部の学部生・院生と立命館大文学部・文学研究科の学部生・院生が、現代日中韓の各文化・経済・社会の諸問題や教科書問題・領土問題等の共同テーマに基づいて調査・研究を行い、それを相互に発表し、議論を行ってきた。この 8 年間で、日中韓で

のべ703名がこのプログラムに参加し、修了者は留学先の国などで大学教員、中高教諭、翻訳通訳業などで活躍している。また日本のNHKをはじめ、日中韓三カ国のマスコミでも取り上げられ、内外で高い注目を受けてきた。その成果として、相互の留学率も高まり、また職員の相互研修も実施し、立命館大学と広東外語外貿大の間では修士課程の複数学位制度が設けられるなど、三大学間では共同運営キャンパスのための基盤が構築されてきた。

3. 構想の概要

以上の実績を基礎とし、以下の事業をおこなうことでキャンパス・アジアとしての発展・拠点形成を図る。

- (1) 上記の日中韓連携ゼミに加え、さらに中国語・韓国語による東アジア言語・文化・文学・歴史等に関わる各大学の学生が受講可能な共同講義群を開講し、日中韓複数言語に堪能な人材を育成する。
- (2) 選抜されたパイロット学生（各国約10名）を中心に、日中韓連携ゼミ・ショートステイに加え、総計2年間の移動キャンパスをプログラム化し、日中韓の言語・文化・文学・歴史等を修得できるそれぞれの自国語を基本とするカリキュラムを整備し、単位互換によって単位認定する。
- (3) 日本側は、パイロット学生用移動キャンパスプログラムも含めて、文学部東洋研究学域現代東アジア言語・文化専攻のカリキュラムに位置づけ（中国側では東方語言文化学院、韓国側では東西大学外国語学部の正課科目として位置づけ）、移動キャンパス以外は原則として文学部全学生に履修を推奨する。
- (4) パイロット学生を中心に、希望する各大学所属学生も含めて、現在有する文学部の豊富な国内インターンシップや、韓国・中国でのインターンシップに学生を相互参画させ、キャリア形成に力を入れる。また、既に実施されている広東外語外貿大学および今後新設される東西大学校との修士課程の複数学位制度を利用して、アジアで広く通用する大学院レベルの高等教育キャリアの形成も促進する。
- (5) 学士力の検証、教育の質の保証のために、これまでも実施してきた三大学教職員合同会議を強化・定例化し、成績管理等の協働性を高めるとともに、語学力などの客観的数値に基づく検証も実施し、卒業時には本プログラム修了証を共同で発行する。また、日本側では到達度検証として卒業論文を必修とする。
- (6) 卒業後も日中韓の本プログラム修了者のネットワークを強固に組織化し、それらを日中韓の資産として活用することを図る。また、「日中韓リーダーズフォーラム」を開催し、本プログラムの修了者・履修者や学内外の本事業関係者などが集まり、各国語の研究発表などを公開で行って、成果の公表に努める。

○平成24年度末までの取組状況

基準1

- 3大学の共通目的「東アジア次世代人文リーダー養成」策定
- 学部学生のための国際教育プログラムを目指す
- バランスの取れたカリキュラムを構築
- 従来の3大学共同運営授業の実績・成果を基盤とする目標と内容を設定
- 3カ国で3カ国の学生がともに学び・生活する「移動キャンパス」

基準2-1

- 「三大学教職員合同会議」と「実務者会議」、「運営委員会」の開催
- 「教員体制」と「学内支援体制」を構築

基準2-2

- カリキュラム構成統一とキャンパス・アジア専用授業を設置
- 通年科目の歴史授業を開講
- 「移動キャンパス」中の教員派遣と学生間サポート学習
- 特別企画および研修の実施

基準2-3

- 「パイロット学生共同宿舎」と語学カフェ、ランゲージエクステンションの実施
- ラーニングアグリメント発行およびWeb履修管理システムの構築
- ノートパソコンの貸与
- 多様な情報発信および学外との連携

基準2-4

- 他大学で受講した全ての科目の単位認定と、ラーニングアグリメント配布
- 開講大学での評価の尊重と、Web履修管理システムの運用

基準3

- プログラム全体の到達度アンケートを開発・三カ国で実施
- 語学能力の定期的検証
- OB/OG組織の土台作りを実施
- 三大学による教育方法の協議・開発

基準4

- 学内運営委員会の設置
- 到達度アンケートの自由記述欄の検証と定期的なプログラムへの意見収集
- 内部評価会議と外部評価委員会の設置準備

II 基準ごとの自己分析

基準1 教育プログラムの目的

海外大学との共同教育プログラムの目的が明確に定められ、参加大学の間で共有されているか。

1. 基準1に係る現況の説明

○ 3大学の共通目的「東アジア次世代人文学リーダー養成」策定

本キャンパス・アジアプログラムに関して、平成24年6月に3大学で国際交流協定書を交わし、プログラムの目的を「東アジア次世代人文学リーダー養成」と定め、以下に記すようなプログラム内容を一致協力して運営することを正式に締結した。

○ 学部学生のための国際教育プログラムを目指す

大学院プログラムのような研究者を育成するものではなく、大学4年間で修了する学部学生のためのプログラム。東アジアのさまざまな大学で運用できる国際教育プログラムのモデル形成を目指している。

○ バランスの取れたカリキュラムを構築

語学・専門知識・コミュニケーション能力の3つの能力をバランスよく修得するプログラム。これまでの国際教育は、語学中心(語学だけ)、研究中心(研究だけ)という偏りがあったが、東アジア関係の発展と複雑化の中で上記の3つの基本的能力を備えた人材が要請されており、新しい時代の期待に応える人材を育成する。

○ 従来の3大学共同運営授業の実績・成果を基盤とする目標と内容を設定

我々3大学は平成15年以降、インターネット回線を用いた遠隔講義「日韓中連携講座」を実施し、これが本プログラムの原型となった。その履修者はこれまでに約800人に上り、各国の大学院へ留学、自国以外での大学・高校・中学へ就職(教職員)、翻訳通訳やマスコミ、または国際関連の業種などで活躍するものが少なくない。このような実績を踏まえ、上記のような共通の目的を共有し、3大学の教学連携を強化し、東アジアの人文学や国際社会で活躍できる能力を持った、より高度な人材育成プログラムになるよう互いに協力している。

○ 3カ国で3カ国の学生がともに学び・生活する「移動キャンパス」

日本・韓国・中国での教育・生活を実際に3カ国で同じ期間(10週間ずつ)おこなう「移動キャンパス」。例えば、日本国内において中国や韓国のことを学ぶドメスティックな机上の学問ではなく、現地で、現地の言葉で、現地の文化・歴史・社会を学ぶ。3カ国の学生が一つの集団となり、3大学のキャンパスをめぐりながら、ともに学び・生活し、互いにサポートしあう。実践的で生きた人文学の知識を持つとともに、国際的な協力関係に直結するような、これまでにない深い信頼関係、友情関係を持つ、「次世代の人文学リーダー」を育成する。

上記項目等の分析から、自己評価を「進展している」としたい。

2. 今後の課題点

○ 安定的な体制作り

本学では、24年度の文学部新入生を主な対象として本プログラムに関する説明会とオリエンテーションをそれぞれ複数回行った。そして同年8月には「移動キャンパス」の事前体験として、日韓中を1週間ずつ移動するオリエンテーションショートステイを実施した。

しかし、ショートステイの最中から深刻化しつつあった日韓中の政治的な問題は、今にいたるまで東アジアにおける緊張を高める状況になっている。このような状況は日本人学生の本プログラムへの参加意欲に影響を与え、説明会、オリエンテーションから11月の学生選抜まで参加希望者が激減する事態もあった。

将来、本事業の長期的かつ安定的な推進策を考えるにあたり、東アジア国際関係や政治状況におけるこのような不安定さに影響されることのない体制作りが課題である。

○教職員間の協力、信頼関係の重要性

本プログラムを共同運営する広東外語外貿大学、東西大学と本学は、過去10年以上にわたる共同授業運営の経験をもち、活発な教職員交流を行ってきた。その経験と交流の実績は本プログラムの運営におけるもつとも重要な財産となっている。

本プログラムの運営においては、3カ国の大学制度の相違をどれだけ調整しつつ協力できるのかがポイントとなっており、今後も参加大学の教職員間の協力、信頼関係の強化と維持が求められる。

基準2 教育の実施
基準2-1 実施体制
目的を達成するための体制が、参加大学等の中で適切に構築され、機能しているか。

1. 基準2-1に係る現況の説明

○ 「三大学教職員合同会議」と「実務者会議」、「運営委員会」の開催

本事業の正式な出発を学内外に示すキックオフカンファレンスを24年5月に行ない、その際に三大学が共同運営する方針を示す協定書を締結し、運営に関わる諸事項の討議体として「三大学教職員合同会議」を各国持ち回りで実施することになった。また、「三大学教職員合同会議」の円滑な実施のために、遠隔システムを利用した「実務者会議」を設け、議題事項の打ち合わせを行なっている。

「合同会議」の役割を以下のような事項の協議・調整の場と位置付けた。

- ・人材育成目標に関する意見交換、目標共有
- ・カリキュラム、成績基準、単位認定等に関する調整、協議
- ・プログラム運営、学生支援等にかかわる情報共有、必要な事項の協議

さらに、各種の会議以外でも、日常的な情報交換を可能にするため、次のようなツールを運用している。

①三大学間メーリングリスト:

三大学内における業務メーリングリストと三大学共同のメーリングリストを活用して日常的に業務進捗の状況を把握

②Web ストレージ「eRoom」:

あらゆる書類、情報、データなどを三大学が Web 上で共同運営、管理できるシステムを構築。

③遠隔システム:

緊急な課題の解決も含め、常に三大学が遠隔システムで会議できる仕組み。

上記の体制以外に、立命館大学文学部においては本事業に関わる最高決定機関として「キャンパスアジア運営委員会」を設置した。「運営委員会」は運営母体である東洋研究学域の専任教員を構成員とし、本事業の運営と学内の全般的な支援に関わる事項についての検討、承認をおこなっている。

○ 「教員体制」と「学内支援体制」を構築

教員体制としてはプログラムマネージャーとしての日本人教員と外国人教員 2 人(韓国担当、中国担当)を採用し、移動キャンパス中の講義の他、留學生活におけるリスク管理などにも注意を払っている。

学内支援、協力体制としては、留学派遣、受け入れの諸手続きに関しては国際部、そして広報課による学内外への積極的な広報活動が行われている。また、教育開発支援課の協力によって学生到達度アンケートを実施する他、キャリアオフィスの支援による企業訪問、インターンシップなどが企画されている。また、学部内の教学体としては、東洋研究学域、日本史研究学域、心理学域、京都学専攻、言語コミュニケーション専攻などの教員が東アジア文化・日本文化・京都文化・異文化理解などの授業を行い、また学内の様々な学習プログラムの開発に相互に協力している。

上記項目等の分析から、自己評価を「進展している」としたい。

2. 今後の課題点

日韓中における各政府の支援規模の差が著しいため、三大学でバランスの良い体制を設計するのに困難が生じる場合がある。

基準 2-2 教育内容・方法

目的を達成するために適切な教育内容や教育方法が共同して検討され、実施されているか。

1. 基準 2-2 に係る現況の説明

○ 「移動キャンパス」カリキュラム構成統一とプログラム専用授業を設置

3か国の学生が一緒に3つのキャンパスをめぐる「移動キャンパス」のカリキュラムに関しては、3 大学が語学授業と人文系演習授業の割合を統一し、各大学での各授業を設置した。「移動キャンパス」前の 24 年度は、本学では朝鮮語と中国語の語学授業以外に、人文的素養を養うために演習授業を行い、相互討論、プレゼンテーションスキル、グローバルな環境における相互理解などを学び、移動キャンパスに向け、学生の現地適応力強化に努めた。

また、本プログラムでは、通常の交換留学のように現地の大学にある既存の授業を履修するのではなく、本プログラムのために三大学が開発した授業を履修する。学生の語学レベルなどを鑑みながら授業の内容や方法を三大学で調整することで、「移動キャンパス」を通じて一貫したカリキュラムとなった。

○ 通年科目の歴史授業を開講

本プログラムの目的「次世代の人文リーダー育成」にもっとも合致する授業として、各国の歴史を各国の言語で学ぶ授業を設けた。「キャンパス・アジア特殊講義日本史入門」「中外交流史の理解」「韓国史の理解」の3つの授業は、それぞれの大学が運営責任を持つ通年授業として、1 年目の「移動キャンパス」を通して履修する。各国の歴史が各国の学校教育でどのように教えられているのか、互いに理解を深め、多様な歴史認識を知ることが目的として、各国の現地での対面授業と遠隔システムを利用して行われている。

○ 「移動キャンパス」中の教員派遣と学生間サポート学習

「移動キャンパス」の上記「日本史入門」授業を行うため広東外語外貿大学に教員を派遣し、また日本人学生のために中国語による授業の学習サポート、生活サポート、さらに中国の社会や文化に関する授業を行った。また広東外語外貿大学の教職員と協力し、在広州日本国総領事館訪問や1泊2日のフィールドワークを実施した。

各国歴史の授業には、学生が自分が履修していない自国史の授業にボランティアとして参加してサポートし、また予習・復習も学生間で協力して学習している。

○ 特別企画および研修の実施

本プログラムの目的を達成するために、教室での授業以外に、一般市民に公開する特別講座や学内の緊密な協力体制による研修などを実施している。

- ・ 姜萬吉氏特別講演会「東アジア史の未来のために」
- ・ 立命館大学平和ミュージアム研修
- ・ 夏期オリエンテーションショートステイ
- ・ 冬季語学現地実習
- ・ 夏期補習授業、中国語発音講座
- ・ 在広州日本国総領事館訪問

このような特別企画は、パイロット学生のニーズに積極的に応じる企画であると同時に、東アジア的観点の涵養、現地適応力の向上、東アジアで求められている人材像の発見などの趣旨から進められており、学生たち

の自立的な活動力向上につながっている。

上記項目等の分析から、自己評価を「進展している」としたい。

2. 今後の課題点

大学入学時期が、日本4月、韓国3月、中国9月と異なるため、とくに語学学習の進捗において各国学生間に差がある。どのように解決するか課題としてある。

基準 2－3 学習・生活支援

学生が適切に学べる環境を形成し、学習・生活面の支援を行っているか。

1. 基準 2－3に係る現況の説明

○ 「3カ国学生共同宿舎」と語学カフェ、ランゲージエクスチェンジの実施

「学生共同宿舎」として2棟の建物を借り上げた。日韓中の学生が寝室、キッチン、リビングルーム、勉強部屋を共同で使用し、学習のみならず、生活面においても助け合いながら互いを理解してゆく。その宿舎は文化都市京都の中心部に位置しており、韓中の学生たちが現地に密着して社会や文化を理解することになる。3カ国の学生が共同学習・共同生活をする中で相互理解を深めてゆく。

また、キャンパスアジアカフェでの語学カフェとランゲージエクスチェンジを日常的に運営することで、語学力の向上と本学で学ぶ留学生との交流を促している。

○ ラーニングアグリメント発行およびWeb履修管理システムの構築

三大学はカリキュラム、単位認定方法などについて入念に協議して共同のシラバスを作成し、それを学生に熟知させるために、本学文学部内の各専攻・学域で発行している「学びの手引き」を参考に、ラーニングアグリメント「プログラムの手引き」を発行した。学生選抜過程、プログラムスケジュール、カリキュラムの概要、科目一覧、卒業に必要な単位数・要件などが、一目瞭然となっている。共同運営の両大学にも配付し、好評を得た。

また、日韓中の3カ国語に対応したWeb履修管理システムを通じ、学生がどの国にいても履修登録、成績確認ができる。

○ ノートパソコンの貸与

学生への学習支援としてノートパソコンを貸与した。パイロット学生は日韓中でどのようなIT環境にあっても、一台の自分用のパソコンで学習、生活することができ、緊急を含む諸連絡を即時に確認できるようになっている。また「キャンパス・アジアポータルサイト」を通して、各自の履修登録、成績の確認もできる。

○ 多様な情報発信および学外との連携

本学プログラムの活動と運営状況を発信するため、以下のようなツールを使用している。

① プログラム・ホームページのブログ

事務局からのイベント告知・報告、各種連絡、案内事項だけでなく、教員と学生による記事も発信。

② Face book ページ

ブログは発信側の一方的な情報伝達手段で、パソコンを開ける環境になれば情報を受信できない。それをカバーし、より日常的な情報の送受信を行うためFace book ページを開設。OB会の発足など、多様な人材のつながりや協力を生み出すことを想定した活用で、将来東アジア人材バンク構築に向けた活動になることを期待している。

③ 立命館大学の海外校友会と交流

中国の広東外語外貿大学での「移動キャンパス」1学期に、立命館広州校友会の校友と交流。また同市

で日本語学校を経営する校友による、中国での仕事や生活、学生時代のキャリア形成についての講演を実施した。

④ 学生ニュースレター「CAP」発行の支援

学生のプログラムに関する自主的な情報発信のため、機関誌として発行し、その支援を行っている。移動キャンパス中の活動や様子を現地と自国の学内外に同時に発信できる企画として、現在第 2 号まで発行。中国では学生たちが一般の印刷業者と交渉して、印刷・発行した。

上記項目等の分析から、自己評価を「進展している」としたい。

2. 今後の課題点

本プログラムは、学生たちがともに学習し、共に生活する方針で運営している。そのため日本滞在時に三カ国の学生の学習環境・生活環境がなるべく同一であることが望ましいと思われる。本プログラムの性格からすれば、韓国や中国の学生への支援だけでなく、日本人学生に対してもそれに準じる支援が必要になっている。

基準 2-4 単位互換・成績評価

単位の取得や海外大学等との互換方法、成績評価の方法および海外大学等との互換方法が定められ、機能しているか。

1. 基準 2-4 に係る現況の説明

○ 他大学で受講した全ての科目の単位認定と、ラーニングアグリメント配布

通常、本学では、海外の大学で単位取得した科目は、単位認定科目として、一律に成績処理され、単位認定をしている科目としてのみ成績通知表や証明書に記載する取り扱いをおこなう。今回、単位の取得にかかわっては、合同教職員会議や遠隔会議を通じて、人材育成目標に沿った移動キャンパス中の提供科目を事前にすり合わせ、他大学で履修した科目を出身大学の語学科目や専門科目として認定できるように調整をおこなった。また、各大学で単位認定基準が異なるため、出身大学で適切な単位認定ができるように補講の実施も含めた授業時間数等の調整もおこなった。それらの結果をラーニングアグリメントとして冊子「プログラムの手引き」に記載することで、受講生は他大学で履修した科目が本学でどのように位置づけられているのかを明確に知ることができ、また自身がどのような学問を修めたかを理解することでモチベーションの向上が図れるようになった。成績通知表や成績証明書にも本学の科目に読み替えて単位認定して記載できるようになっている。

○ 開講大学での評価の尊重と、Web 履修管理システムの運用

成績評価は、合同教職員会議において「各大学の基準を尊重し、各授業の開講大学の基準で成績評価をおこなう」ことを決定した。前述のとおり、中韓で履修した科目は本学では「認定(N評価)」となり、学習目標に対する到達レベルでの評価はおこなわれない。しかし、今回のプログラム専用に開発した Web 履修管理システムによって、受講生たちは開講大学での評価を直接参照できるので、自らの履修に対する評価を知ることができ、学習のモチベーション向上につながっている。この Web 履修管理システムでは、成績評価の参照だけでなく三大学の教職員がそれぞれに ID を持ち、セキュリティが守られた状態で、各国言語によってシラバス入稿・公開や、成績評価入力・公開をおこなうことができる。シラバスにおいては、三大学で協議の上、記載項目を共通とし、成績評価方法などを事前に学生に提示できる形態とした。また成績評価においては、各大学の評価基準に沿って、5 段階の絶対評価/百点満点の点数による相対評価/9 段階の相対評価でおこなうようになっている。Web 環境として構築し、成績評価は出身大学の成績発表時期に抛らず各学期の終了後に迅速に提示することで、学生たちがいつどの国に居てもシラバス参照や成績評価確認をおこなえる、円滑で透明性の高い履修管理の仕組みとなっている。

上記項目等の分析から、自己評価を「進展している」としたい。

2. 今後の課題点

Web 履修管理システムでは各大学の学生がそれぞれ詳細な成績を確認できるが、成績評価としては単位認定を示す「N(認定)」としか記載されない。これは本学で設定する学生個々の成績評価基準となる GPA に反映できないため、学生の学習意欲を高める上で影響があるのではないかと考えている。「履修した」ことを示す「N(認定)」との単純な記録だけではなく、本学での通常評価となる 5 段階評価を適用できるように検討をすることが課題となる。現時点では大学設置基準上、海外で運用する科目で、本学の使用する 5 段階評価をおこなうためには、現地の授業を作成・監督する本学の教員を成績担当者として置く必要があるが、各開講大学の主体的な運営を尊重することと相反する場合もあり、継続的な検討課題となっている。

基準3 学習成果

教育プログラムの目的に即して学習成果を測定する方法を設定し、成果が適切にあがっているか。
--

1. 基準3に係る現況の説明

本プログラムは、学部4年間を通じて一つのプログラムとなっている点に特徴がある。このような長期プログラムとしての特徴を考慮し、以下のような学習成果の検証方法を実施・検討している。

○ プログラム全体の到達度アンケートを開発・三カ国で実施

語学などの学習能力以外で、国際的なコミュニケーション能力・リーダーシップなど包括的な学生の到達度を定期的にはかるため、本学教育開発支援機構とともに本プログラムのための到達度アンケートを共同開発した。アンケートは中国語・韓国語に翻訳し、ウェブシステム上にアップして、三カ国同時に実施した。本アンケートは、年に1度実施し、4年間を通じての学生の到達度の検証が可能となるように設計した。また、回収したアンケートは専門家を通じて結果分析をして、各国学生の到達度を客観的に検証する。

○ 語学能力の定期的検証

語学学習の客観的な成果を見るために、日本で広くおこなわれている中国語、韓国語能力の検定試験を定期的に受験している。24年度4月に学習を開始した本学のプログラム参加学生8人が、11月の中国語検定試験(日本中国語検定協会)の4級に全員合格している。

○ OB/OG 組織の土台作りを実施

Face book やホームページなど、多様な手段を通じて三大学のパイロット生 28 名のネットワークを卒業後も継続して活かしていく組織作りを企画している。その土台として、これまでの三大学 10 年の交流の中で形成した OB 会を本年度に立ち上げる予定である。

○ 三大学による教育方法の協議・開発

本プログラムでは、遠隔講義の実施をはじめ、教職員の講義見学を相互に行い授業方式や成績評価方法などについて、活発な意見交換を行っている。こうした三大学間の情報交換と議論を通じて実施中の教育方法を検証し、さまざまな講義方法を模索している。

上記項目等の分析から、自己評価を「進展している」としたい。

2. 今後の課題点

学生の成長を把握するために、学習成果をグラフで表記し、管理する方法も検討している。韓国東西大学ではパイロット学生の選抜段階から学生の成績をグラフに作成して管理してきた。このような方法を三大学共通でシステム化できないか、検討中である。

到達度アンケートについては、24年度夏期のショートステイの前に試行版で実施し、その回答傾向を分析して修正した正規版を25年2月の移動キャンパス開始時に実施した。設問項目、回答方式(選択方式)などは、プログラムの目的や進捗、3カ国の学生の全体的な特徴(気質)を鑑みながら設定する必要があるため、試行版の実施と修正は必要であった。今後も数回実施して、プログラムの進展にともなう回答傾向の推移を見ながら、最終版を決定する予定である。

試行版の実施後に、韓国側からアンケートの内容をさらに学習効果が明確になるものにしてはという提案があった。本学としては、学習効果に関しては授業評価および上記語学試験等を中心に測り、到達度アンケートでは授業学習外の効果・行動や意識の変化を測るためのものとして作成していた。例えば予習や復習の時間、学業その他の生活スケジュール管理意識、集団や社会に対する意識、国際感覚などを測るものと位置付けていることを説明し、韓国側の理解を得た。このような学習に関するアンケートを実施する際に、その趣旨や意義について各国の教育に関する考え方の相違が出る場合があり、それを説明し、各国に理解を得る事前の対応が必要である。

本プログラムは大学4年間をかけたものであるため、現段階での成果は、あくまでも中途の段階のものでしかない。27年度末をもって正式な学習成果としたい。

基準4 内部質保証システム

内部質保証や改善のための体系的な取組みが、参加大学との連携のもとで行われ、機能しているか。

1. 基準4に係る現況の説明

○ 学内運営委員会の設置

プログラムの実施内容について報告、評価、検証をするために、プログラムに関連する学部内教学体から委員を選出する形で運営委員会を設置し、定期的に開催することで意見やアドバイス等を得ている。

○ 到達度アンケートの自由記述欄の検証と定期的なプログラムへの意見収集

定期的実施している到達度アンケートの末尾に、学生たちが自由に意見や要望を書けるスペースを用意している。また学生たちが感じたプログラムの問題点を聞き取る機会を設けている。プログラムに対するさまざまな意見や感想、要望等が寄せられ、運営する教職員間で共有し、プログラムの運営に反映させている。

○ 内部評価会議と外部評価委員会の設置準備

24年2月に、「移動キャンパス」が始まる前に、約一年間のプログラム運営について振り返る会議をおこなった。プログラム運営に関与した教職員を主なメンバーとして、プログラム内の各種行事・授業についてあらためて思い返し、学生から収集していた意見や不満などを参考にして、意見や感想を述べあった。最終的に、将来への常設化に向けた提言をまとめ、総括をおこなった。

またプログラムの外部からの評価をする委員会を設置する予定である。中国や朝鮮半島に関する学識者や関西の経済界から委員を招く準備を進めており、すでに人選は終了している。

上記項目等の分析から、自己評価を「標準」としたい。

2. 今後の課題点

[大学名]	立命館大学	
	(中国側大学) 広東外語外貿大学	(韓国側大学) 東西大学校
[構想名]	東アジア次世代人文学リーダー養成のための、日中韓共同運営トライアングルキャンパス	

1. 構想全体における交流学生数(実績)

(単位:人)

平成23年度		平成24年度	
受入	派遣	受入	派遣
0	16	74	70

2. 奨学金・宿舎提供の状況

(単位:人)

(1) 奨学金を受けている学生数		平成23年度		平成24年度	
		受入	派遣	受入	派遣
		0	16	39	28
内訳	日中韓三国共通の財政支援受給者	0	0	0	9
	大学による奨学金	0	0	0	3
	その他の奨学金	0	16	39	16

(2) 宿舎(大学所有の宿舎、大学借り上げによる宿舎等)を提供されている学生数		平成23年度		平成24年度	
		受入	派遣	受入	派遣
		0	16	74	70

3. 個別の交流プログラムの概況

※色の見方 外国人学生の受入れ(中韓⇒日本) 日本人学生の派遣(日本⇒中韓)

受入/派遣	相手国	平成23年度		平成24年度			
		第3四半期	第4四半期	第1四半期	第2四半期	第3四半期	第4四半期
受入	中国				①19		
	韓国				②20		
派遣	中国		①6		②17		⑤4
	韓国				③17	④4	⑥4
							⑦8
							⑧16

外国人学生の受入れ(中韓⇒日本)							日本人学生の派遣(日本⇒中韓)								
No.	交流期間		派遣元	交流内容	取得可能 単位数	学生交流数		No.	交流期間		派遣先	交流内容	取得可能 単位数	学生交流数	
	始期	終期				計画値	実績		始期	終期				計画値	実績
①	24.07	24.08	中国	日韓中連携講座(4日間)	—	20	19	①	24.02	24.02	中国	日韓中連携講座(6日間)	2	20	16
②	24.07	24.08	韓国	日韓中連携講座(4日間)	—	20	20	②	24.08	24.08	中国	オリエンテーション・ショートステイ(1週間)	2	20	17
③	24.08	24.08	中国	オリエンテーション・ショートステイ(1週間)	—	20	20	③	24.08	24.08	韓国	オリエンテーション・ショートステイ(1週間)	2	20	17
④	24.08	24.08	韓国	オリエンテーション・ショートステイ(1週間)	—	20	15	④	24.08	24.12	韓国	CAサポート学生派遣	18	4~5	4
								⑤	24.12	24.12	中国	語学集中研修(6日間)	0	5	4
								⑥	24.12	24.12	韓国	語学集中研修(5日間)	0	5	4
								⑦	25.02	25.04	中国	2013年 移動キャンパス1学期	10	10	8
								⑧	25.02	25.02	韓国	日韓中連携講座(4日間)	2	20	16

4. カリキュラム一覧・ラーニングアグリメント

【教育研究上の目的】

- ① 中国・韓国・日本の文化・社会・歴史に関する基礎知識を身につけ、それを東アジア全体の中で位置づけることができる。
- ② 東アジアに関する人文的専門知識を有し、さらにそれを高度化させていくことができる。
- ③ 中国語・朝鮮語の実践的な運用能力を身につけ、各国で生活・学習する上で十分にコミュニケーションすることができる。
- ④ 東アジアの理解に不可欠な中国語・朝鮮語の文献・データを理解・分析し、かつ各言語で発表することができる。
- ⑤ 東アジアの文化的・歴史的違いを理解しつつ、東アジアの現実的課題を東アジアの人々と共有し、ともに未来志向的に解決するためのリーダーシップを有する。

学期	キャンパス	区分	科目名	単位数	①	②	③	④	⑤	立命館大学文学部での単位互換科目		開講言語	開講責任大学	登録必須/選択	
										2012年度入学生	2011年度入学生				
2012前期	立命館大	専門	東アジア現地実習 (オリエンテーションショートステイ)	2	●	●	●	●	●	(読替不要)		各言語	三大学	登録必修	
2012後期	立命館大	語学	朝鮮語(キャンパスアジア)Ⅰ ※1	1	●	●				(読替不要)		朝鮮語	立命館大	登録必修	
		語学	中国語(キャンパスアジア)Ⅰ ※1	1	●	●				(読替不要)		中国語	立命館大		
		専門	キャンパスアジア演習Ⅰ	2	●	●	●				(読替不要)		日本語		立命館大
2013 1学期	広東外大	語学	中国語読解	2	●	●				中国語【応用】(2単位まで)あるいは、外国留学科目【初修外国語】(1~4単位)		中国語	広東外大	登録必修	
		語学	中国語会話	2	●	●						中国語	広東外大		
		専門語学	中国社会研究Ⅰ	2		●	●				専門外国語Ⅰ(中国語)※2	現代中国特別講義Ⅰ	中国語	広東外大	登録必修
		専門	【通年科目】 キャンパスアジア特殊講義(日本史入門Ⅰ)	(4)	●	●					(受講できない)		日本語	立命館大	
		専門	【通年科目】 中外交流史の理解Ⅰ	4	●	●	●				キャンパスアジア特殊講義(中国史入門Ⅰ)		中国語	広東外大	登録必修
		専門	【通年科目】 韓国史の理解Ⅰ	4	●	●	●				キャンパスアジア特殊講義(韓国史入門Ⅰ)		韓国語	東西大	
		専門	キャンパスアジア特殊講義(中国研究入門) (立命館学生用科目)	2	●	●	●				(読替不要)		日本語	立命館大	登録必修
専門	中国文化科目	2	●	●	●				アジア現代文化論Ⅰ	現代中国特別講義Ⅱ	中国語	広東外大	選択科目		

学期	キャンパス	区分	科目名	単位数	①	②	③	④	⑤	立命館大学文学部での単位互換科目		開講言語	開講責任大学	登録必須/選択		
										2012年度入学生	2011年度入学生					
2013 2学期	立命館大	語学	朝鮮語(キャンパスアジア)Ⅱ ※1 (立命館学生用科目)	1		●	●				(読替不要)		朝鮮語	立命館大	登録必修	
		語学	中国語(キャンパスアジア)Ⅱ ※1 (立命館学生用科目)	1		●	●				(読替不要)		中国語	立命館大		
		専門(専門)	キャンパスアジア演習Ⅱ	2		●	●	●			(読替不要)		日本語	立命館大		
		専門	キャンパスアジア日本研究Ⅰ(日本文化)	2	●	●	●				(読替不要)		日本語	立命館大		選択科目
		専門	【通年科目】 キャンパスアジア特殊講義(日本史入門Ⅰ)	(-)	●	●					(受講できない)		日本語	立命館大		受講不可
		専門	【通年科目】 中外交流史の理解Ⅱ	-	●	●	●				キャンパスアジア特殊講義(中国史入門Ⅱ)		中国語	広東外大		登録必修
		専門	【通年科目】 韓国史の理解Ⅱ	-	●	●	●				キャンパスアジア特殊講義(韓国史入門Ⅱ)		韓国語	東西大		
		語学	日本語Ⅰ文法・文章表現(キャンパスアジア)	(1)		●	●				(受講できない)		日本語	立命館大		受講不可
		語学	日本語Ⅱ文法・文章表現(キャンパスアジア)	(1)		●	●				(受講できない)		日本語	立命館大		
		語学	日本語Ⅲ読解・語彙(キャンパスアジア)	(1)		●	●				(受講できない)		日本語	立命館大		
語学	日本語Ⅴ聴解・口頭表現(キャンパスアジア)	(1)		●	●				(受講できない)		日本語	立命館大				
2013 3学期	東西大	語学	韓国語会話Ⅰ	1		●	●			朝鮮語【応用】(2単位まで)あるいは、外国留学科目【初修外国語】(1~4単位)		韓国語	東西大	登録必修		
		語学	韓国語会話Ⅱ	1		●	●					韓国語	東西大			
		語学	韓国語読解	1		●	●					韓国語	東西大			
		語学	韓国語作文	1		●	●				外国留学科目【初修外国語】		韓国語	東西大	登録必修	
		専門語学	韓国社会研究	2		●	●				専門外国語Ⅰ(朝鮮語)※2	韓国概論Ⅰ	韓国語	東西大		
		専門	【通年科目】 キャンパスアジア特殊講義(日本史入門Ⅱ)	(-)	●	●					(受講できない)		日本語	立命館大		受講不可
		専門	キャンパスアジア特殊講義(韓国研究入門) (立命館学生用科目)	2	●	●	●				(読替不要)		日本語	立命館大		
専門	【通年科目】 中外交流史の理解Ⅲ	-	●	●	●				キャンパスアジア特殊講義(中国史入門Ⅲ)		中国語	広東外大	登録必修			
専門	【通年科目】 韓国史の理解Ⅲ	-	●	●	●				キャンパスアジア特殊講義(韓国史入門Ⅲ)		韓国語	東西大				
専門	韓国文化概論	2	●	●	●				東アジア現代文化論Ⅱ	韓国概論Ⅱ	韓国語	東西大	選択科目			
2014 1学期	広東外大	語学	高級中国語Ⅰ	1		●	●			外国留学科目【初修外国語】		中国語	広東外大	登録必修		
		語学	高級中国語Ⅱ	1		●	●					中国語	広東外大			
		語学	高級中国語Ⅲ	1		●	●					中国語	広東外大			
		語学	中国語資格試験対策	1		●	●				外国留学科目【初修外国語】		中国語	広東外大	登録必修	
		専門	中国研究Ⅰ	2	●	●				現代中国研究Ⅰ		中国語	広東外大	選択科目		
		専門	中国研究Ⅱ	2	●	●				現代中国研究Ⅱ		中国語	広東外大	選択科目		
		専門	現代中国に関する講義	2	●	●					現代東アジア言語・文化講義演習(中国)		中国語	広東外大	登録必修	
		専門	小集団演習系科目	2	●	●	●				基本講義Ⅱ	各所属の3回生演習科目(2単位)	中国語	広東外大		

5. 科目一覧

学期	キャンパス	区分	科目名	単位数	立命館大学文学部での単位互換科目					開講言語	開講責任大学	登録必須/選択	
					①	②	③	④	⑤				2012年度入学生
2014 2学期	立命館大	語学	朝鮮語(キャンパスアジア)Ⅲ ※1 (立命館学生用科目)	1	●	●				(読替不要)	朝鮮語	立命館大	登録必修
		語学	中国語(キャンパスアジア)Ⅲ ※1 (立命館学生用科目)	1	●	●				(読替不要)	中国語	立命館大	
		専門	キャンパスアジア演習Ⅲ(小集団科目)	2	●	●	●			(読替不要)	日本語	立命館大	
		専門	キャンパスアジア日本研究Ⅱ	2	●	●				(読替不要)	日本語	立命館大	選択科目
		専門	キャンパスアジア日本研究Ⅲ	2	●	●				(読替不要)	日本語	立命館大	選択科目
		専門	(科目名未定: 現代日本に関する講義)	2	●	●				(読替不要)	日本語	立命館大	登録必修
		語学	日本語Ⅶ・文章表現(キャンパスアジア)	(1)	●	●				(受講できない)	日本語	立命館大	受講不可
		語学	日本語Ⅷ・文章表現(キャンパスアジア)	(1)	●	●				(受講できない)	日本語	立命館大	
		語学	日本語Ⅸ・口頭表現(キャンパスアジア)	(1)	●	●				(受講できない)	日本語	立命館大	
語学	日本語Ⅹ・口頭表現(キャンパスアジア)	(1)	●	●				(受講できない)	日本語	立命館大			
2014 3学期	東西大	語学	韓国語コミュニケーション演習	1	●	●				外国留学科目【初修外国語】	朝鮮語	東西大	登録必修
		語学	韓国語プレゼンテーション演習	1	●	●				外国留学科目【初修外国語】	朝鮮語	東西大	
		語学	韓国語資格試験対策	1	●	●				外国留学科目【初修外国語】	朝鮮語	東西大	
		専門	韓国社会研究	2	●	●				現代韓国研究Ⅰ 現代韓国特殊講義Ⅰ	朝鮮語	東西大	選択科目
		専門	韓国の文化コンテンツ	2	●	●				現代韓国研究Ⅱ 現代韓国特殊講義Ⅱ	朝鮮語	東西大	選択科目
		専門	東アジア地域研究	2	●	●	●			現代東アジア言語・文化講義演習 人文科学総合講座特殊講義	朝鮮語	東西大	登録必修
専門	小集団演習系科目	2	●	●	●			専門演習Ⅱ	朝鮮語	東西大	登録必修		
2015 前期	立命館大	語学	朝鮮語(キャンパスアジア)Ⅳ ※1	1	●	●				(読替不要)	朝鮮語	立命館大	登録必修
		語学	中国語(キャンパスアジア)Ⅳ ※1	1	●	●				(読替不要)	中国語	立命館大	
		専門	キャンパスアジア日本研究Ⅳ	2	●	●	●	●		(読替不要)	各言語	三大学	登録必修
2015 後期	立命館大	専門	海外インターンシップ	2		●	●			(読替不要)	※3	三大学	選択科目
		専門	東アジア遠隔講義Ⅰ	2	●	●	●			(読替不要)	各言語	三大学	選択科目
		専門	東アジア遠隔講義Ⅱ	2	●	●	●			(読替不要)	各言語	三大学	選択科目

(注) 2014年以降の講義は、実施時期・科目名を変更をすることがあります

- ※1 第一外国語や第二外国語としての単位には含まれません。
- ※2 第一外国語や第二外国語に中国語/朝鮮語を選択していない場合は、別の専門科目に読み替えます。
- ※3 使用言語はインターンシップ先により異なります。

【登録必須科目】必ず登録・受講しなければならない科目の一覧

配当年次	語学科目 ()内は単位数	専門科目 ()内は単位数
2年次	・中国語読解(2)	・中国社会研究Ⅰ(2)
	・中国語会話(2)	・中外交流史の理解Ⅰ～Ⅲ(4)
	・朝鮮語(キャンパスアジア)Ⅱ(1)	・韓国史の理解Ⅰ～Ⅲ(4)
	・中国語(キャンパスアジア)Ⅱ(1)	・キャンパスアジア特殊講義 (中国研究入門)(2)
	・韓国語会話Ⅰ(1)	・キャンパスアジア演習Ⅱ(2)
	・韓国語会話Ⅱ(1)	・韓国社会研究(2)
	・韓国語読解(1)	・キャンパスアジア特殊講義 (韓国研究入門)(2)
	・韓国語作文Ⅰ(1)	
	・韓国語作文Ⅱ(1)	
3年次	・高級中国語Ⅰ(1)	・現代中国に関する講義Ⅲ(2)
	・高級中国語Ⅱ(1)	・小集団演習系科目(2)
	・高級中国語Ⅲ(1)	・キャンパスアジア演習Ⅲ (小集団科目)(2)
	・中国語資格試験対策(1)	
	・朝鮮語(キャンパスアジア)Ⅲ(1)	・[科目名未定: 現代日本に関する講義](2)
	・中国語(キャンパスアジア)Ⅲ(1)	・東アジア地域研究(2)
4年次	・韓国語コミュニケーション演習(1)	・小集団演習系科目(2)
	・韓国語プレゼンテーション演習(1)	
	・韓国語資格試験対策(1)	
4年次	・朝鮮語(キャンパスアジア)Ⅳ(1)	・キャンパスアジア日本研究Ⅳ(2)
	・中国語(キャンパスアジア)Ⅳ(1)	

三大学教職員合同会議

立命館大学 文学部

文学部 教授会

桂島宣弘(文学部長)
+文学部所属の教授・准教授

国際連携本部

教育開発推進機構

キャンパスアジア運営委員会

宇野木洋(運営委員長)
+東洋研究学域の各専攻主任

キャンパスアジア事務局

庵逄由香、廣澤裕介、金泰勲、朴愛花
山本浩平、香月英明、田村悠、尹恵子

国際教育推進機構、常任理事会

広東外語外貿大学 教員会議

専任教員 教員・職員・TA
(韓国語・日本語・英語対応)

東西大学校 教員会議

専任教員 教員・職員・TA
(日本語・中国語・英語対応)

運営組織 構成員

文学部 教授会	桂島宣弘 教授(文学部長) ほか、文学部所属 教授・准教授
キャンパスアジア運営委員会	宇野木洋 教授(文学部副学部長) 芳村弘道 教授(中国文学専攻主任) 鷹取祐司 教授(東洋史学専攻主任) 佐々充昭 教授(現代東アジア・言語文化専攻主任) 稲森裕実 (文学部事務室事務長)
キャンパスアジア事務局	廣澤裕介 准教授(プログラム・マネージャー) 庵道由香 准教授(プログラム・マネージャー) 金泰勲 講師(キャンパスアジア担当教員) 朴愛花 講師(キャンパスアジア担当教員) 山本浩平 (キャンパスアジア担当職員) 香月英明 (キャンパスアジア担当職員) 田村悠 (キャンパスアジア担当職員) 尹恵子 (キャンパスアジア担当職員)